

前田 圭介
UID

【作品名】
町×apartment

設計 UID
施工 株式会社 沖田
竣工日 2017年12月15日

◎建物概要
建設地 広島県広島市 延床面積 212.28㎡
敷地面積 467.42㎡ 構造・規模 鉄筋コンクリート造

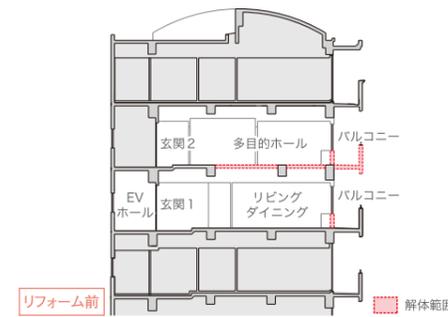
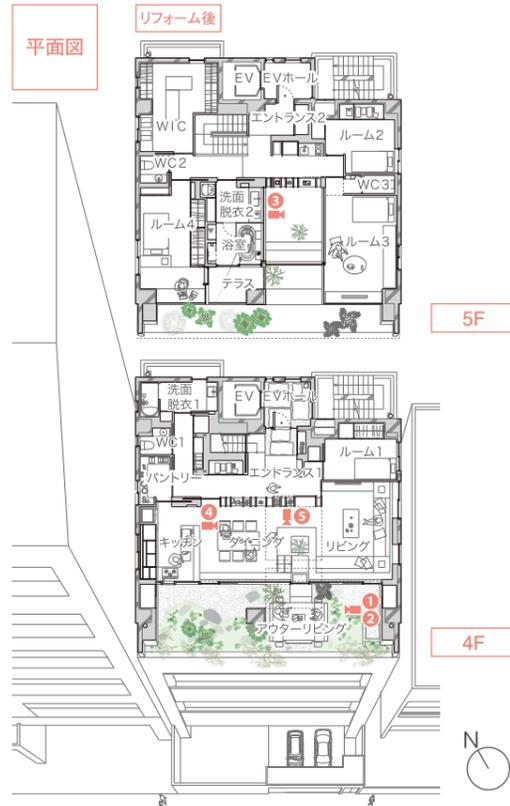
◎設備面の特記
厨房機器 ガスコンロ
給湯機器 エコジョーズ
冷暖房機器 エアコン 床暖房(ヒートポンプ式)



before



after



設計コンセプト

都市部に建つ築20年ほどの高層共同住宅の2層に渡る改修である。一般的なマンションは、階高やテラスなど同じ形式を垂直方向へ効率よく積層するため、画一的で単調な表層になりがちだ。また上層階へ行くほど地上と離れた生活は住まいの機能だけを満たし、豊かな自然の庭(=大地)を感じる環境とはかけ離れた状況にある。

今回、建主所有の高層共同住宅の4、5階部分を改修するにあたり、日々多忙な建主夫婦から求められた要望は「家で過ごす時間をゆったりとできる居場所」であった。子どもたちも成人したことから自分たちの時間を優先し、不要な部屋を減築することで適度な床面積と自然溢れる大地が感じられる空間を考えた。

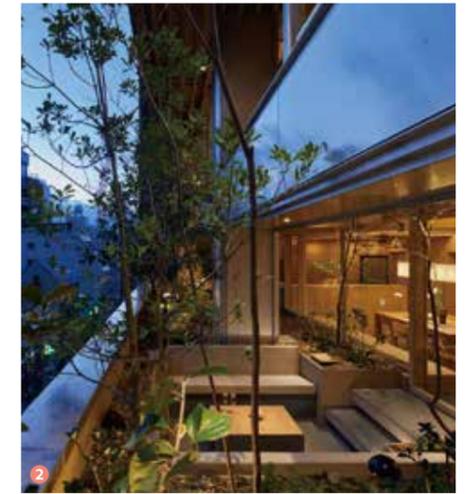
具体的にはまず、サッシがあった内外境界面を取り払い、外部の庭面積を拡張。そして5階のバルコニーはもちろんのこと、不要な床スラブの減築によって縦方向への開放性をつくり、残された十字のフレーム構造をビル全体の新たなファサードデザインとして

取り込んだ。これにより高木の配植が可能となり、空中に浮かぶ庭越しに陽光が内部空間へ降り注ぐ。枝葉のゆらぎの陰影を感じさせる、今までにない、確かな大地を感じることができる自然環境が生まれた。

近年のマンションのリノベーションは、間仕切りを取り払い横方向へ拡張したり、仕上げを剥ぎ取りラスティックな器とするものが多い。そのような中、上下階を繋ぐ立体的な設計とマンションという高層階のビルディングタイプにおいてもランドスケープデザインを諦めないこの解法は、ビル所有者との対話の中でこそ生まれる。現在、供給過多・需要減少する高層共同住宅において、新たな価値を持ち合わせたストック再生のケーススタディになればと思う。アーバンスケープを感じられる浮遊した住まいと庭、都市との関係性をこの新たな大地によって創出した。

審査委員講評

市街地の中心部に、これほどに緑の多い住まいが可能となっていることに驚きました。2層にまたがるボリュームを減築し、バルコニーの奥行きを広くして生まれた庭。その庭とともに、木質系を多用した素晴らしい住空間を生成しています。これからのライフスタイルに対応させたリノベーションの、新たなケーススタディとなる見事な提案です。



①②木漏れ日を浴びてくつろげるアウトリービング。奥行き約1.5mという一般的な細長い既存バルコニーは、内外の境界となっていた壁を取り払い、約3.4mに拡張した庭とすることで都市でも自然に包まれる感覚が得られる。庭のソファやテーブルは収納機能を有し、住み手の様々なシーンに応じた使い方ができる。



③④⑤減築によって庭や垂直方向への抜けをつくりだし、高木の配植が可能となったうえ、テラスや吹き抜けから降り注ぐ自然光が奥の空間まで明るく照らす。夏場は上階の軒と植栽によって直射光を和らげ、冬場は床暖房を使用した石材の蓄熱効果によって、年間を通して快適な住空間をめざした。棚は空調システムや製作照明などの設備機器を組み込んでいる。

